



「SPHニュースレター」では、研究成果、教員の紹介、在学生の声、卒業生のご活躍等、静岡SPHの魅力を発信していきます。

在校生紹介



博士課程2年

朝比奈 彩さん

〈主な研究内容〉

SKDBを活用した高血圧や多血症の研究など

研究成果を県民にフィードバックしていきたい

朝比奈さんは、臨床検査医としての仕事をするかわら、学業と子育てを両立する3児の母でもあります。学び直しを目的に大学院への入学を検討している中、週末に集中して受講できる講義や、オンライン講義があるため、静岡SPHが近所にあることも考慮し、入学を決めたそうです。

朝比奈さんに聞いてみました!

Q.静岡SPHに入学した理由は?

A.長年、医療の現場で働いていると、スタッフたちから研究の相談を受けることがあります。ベストなアドバイスをしてあげたいのですが、私自身が研究者としてまだ道半ば。答えに迷うこともあり、そこであらためて学び直そうと入学を決意しました。

Q.静岡SPHに入学してよかった点を教えてください。

A.看護師や歯科医、薬剤師や保健師など、さまざまな職種の方が通っています。講義中のグループディス

カッションなどで、それぞれの立場だからその意見や物の考え方を知ることができ、それがとても新鮮でした。同じ志をもつ仲間同士、意見交換が非常にためになっています。

Q.仕事や家事と学業の両立のコツはありますか?

A.家族のサポートがあるのでなんとか両立できています。夫や子ども、私や夫の両親には感謝してもし足りないくらいで、いつも「ありがとう」と意識的に言葉に出して伝えています。また、私が自由にさせてもらって

る分、夫が趣味で飼っている蛇やワガタについては内心苦手ですが、見守るようにしています(笑)。

Q.今後の目標についてお聞かせください。

A.研究の成果を県民にフィードバックしていきたいです。特に、がんや遺伝子にまつわる病気などの研究結果は、医学知識のない方には理解が難しいもの。私が担当している患者や身近な人たちに分かりやすく伝え、サポートをしていくことも使命だと考えています。

お知らせ

2024年4月

じよくそ

褥瘡(床ずれ)に悩む患者さんへの貢献を目指す

寄附講座「ウエルネスみらい講座(タイカ)」を始動しました。

株式会社タイカ様から寄附講座設置に向けた寄付金の寄贈をいただきました。皮膚の脆弱予防や効率的な褥瘡診療の開発、多剤投与と薬剤副作用の

問題など、高齢者が抱える問題に焦点をあて、健康に生活するための具体的な方法を追究し、幅広い研究に役立ててまいります。

研究分野: 褥瘡に関すること。長寿ウエルネスに寄与すること。寄附講座設置期間: 令和6年4月1日から令和9年3月31日まで

寄附講座「ウエルネスみらい講座(タイカ)」ホームページ

ウエルネスみらい講座 タイカ

検索

詳細はこちらから→



株式会社タイカ 寄附金(寄附講座設置)贈呈式



学長/理事長インタビュー

その挑戦が、世界をもっと健康にする

学長が推進する「行動する公衆衛生学」とは

本学の特徴は、静岡県市町国保データベース(SKDB)を活用した研究を基盤とした「ビッグデータサイエンス」にあります。公衆衛生学は、目の前の患者と向き合う臨床医学とは違い、広く社会集団を研究対象とした医学です。研究結果や最新データをみ

なさんと共有することが本学のテーマの一つであり、研究成果は各行政機関へも提供可能で、健康施策への活用も期待できます。静岡県は東西155km、南北118kmと広い面積を有し、それぞれ地域に特色があるので、地域格差の研究も重要です。そこで得られ

たデータを最先端の疫学研究、ゲノム医学研究に活用し、社会に還元する。これこそが「行動する公衆衛生学」なのです。

静岡社会健康医学大学院大学 学長/理事長 宮地良樹



県内全域で食や健康に関する調査を実施中 市町単位の栄養摂取状況が把握可能に

▶▶ 静岡県民限定! 食と生活習慣チェック

35市町ごとの栄養摂取状況BDHQ調査※は全国初

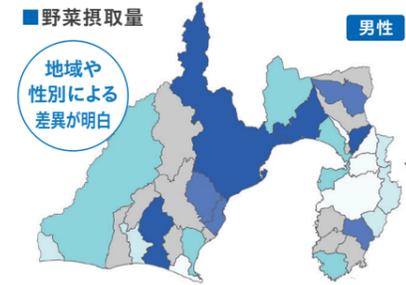
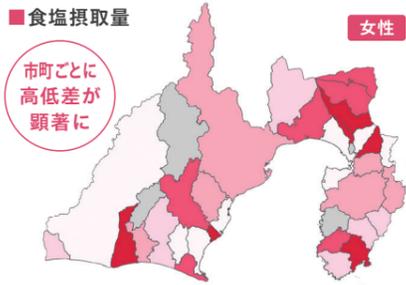
静岡県と本学は、令和4年度から県民参加の「食と生活習慣チェック」を実施しています。栄養摂取状況について詳細データを収集するには100項目以上の質問に回答してもらう必要がありますが、県内すべての市町で行うことは困難でした。

全国でも全市町での栄養摂取状況を

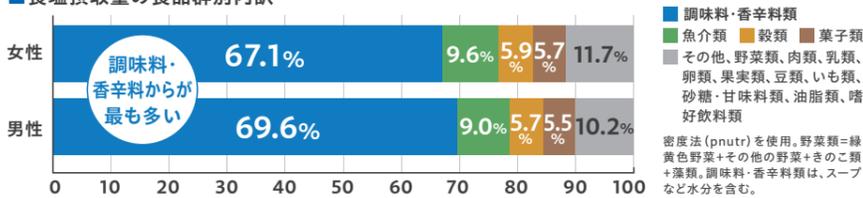
把握する調査を行なった事例はなく、国内初となる試みです。これにより、年齢別、男女別の塩分摂取量や野菜摂取量、どの食品から栄養素を摂取しているかだけでなく、がん・循環器疾患になるリスクなどの健康寿命にかかわる項目がわかるようになります。

※BDHQ調査とは…簡単な質問に答えていくだけで、約1か月間の食習慣を可視化できる調査のことです。

高血圧や糖尿病の原因となる食塩の摂りすぎや野菜不足など調査結果を市町ごとに可視化



食塩摂取量の食品群別内訳



回答数がまだ少ない市町もありますので、ぜひご参加ください。

本調査のわかりやすい紹介動画がありますのでぜひご覧ください。



〈静岡SPH動画チャンネル〉

食と生活習慣チェック調査

https://rok.rokproject.jp/nr

静岡SPH 食 検索

▲個人結果をその場で確認できる

市町ごとに抱える健康問題と食習慣の関連性をモニタリングし、毎年、調査・研究を行います。県主導により35市町ごとの調査が可能に。今後も毎年調査を行う予定です。

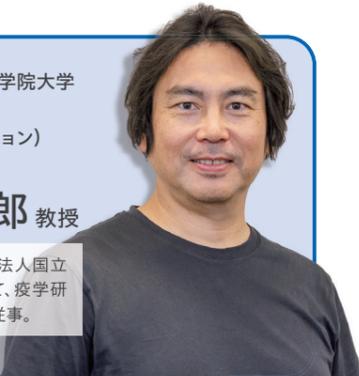
県や市町の健康づくり施策への実装に期待

このモニタリング研究では、調査結果が個人の健康管理に役立つだけでなく、県内の医療ビッグデータから得られた疾患に関する地域別の結果と、各地域の食生活などの特徴とを比べることで、**健康寿命の延伸につながる施策を市町毎に実装・展開するための基礎資料として役立てられます。**

静岡社会健康医学大学院大学 教授(疫学・統計学・ヘルスコミュニケーション) 博士(保健学)

山本精一郎 教授

前職は国立研究開発法人国立がん研究センターにて、疫学研究や臨床試験に長年従事。



担当教授による研究解説

県民の健康寿命延伸に向けた調査にご協力を

今回実施している「食と生活習慣チェック」は、静岡県民の健康寿命の延伸を目的とした生活習慣の実態調査です。これは全国初の取り組み

で、質問票に沿って答えるとその場で自分の健康状態も確認することができます。ぜひ参加して健康づくりに役立ててください。

静岡県の医療ビッグデータSKDBによる分析

ビッグデータを活用し35市町の歯科受診割合を調査 地域による差異や病気との関連が明らかに

本学では、静岡県下全35市町の国民健康保険および後期高齢者医療制度加入者の医療・介護・特定健診データ(KDBデータ)を結合した医療ビッグデータである「**静岡県市町国保データベース(SKDB)**」を活用した研究を行っています。今回、県下の歯科受診割合を分析したところ、市町による受診割合の違いや、病気との関連などが明らかになりました。

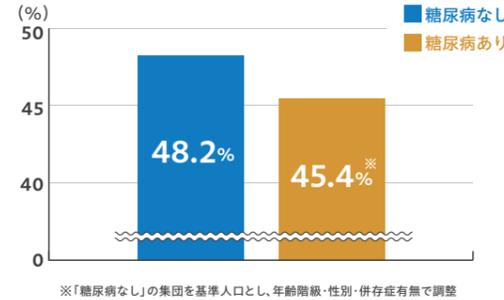
■ 歯科受診割合の県内比較 (2019年度) 40歳以上



地域や個人の背景を踏まえた歯科受診の勧奨を行うことで、県民の口腔の健康維持・増進が期待できます。

【糖尿病患者の歯科受診が低い割合に】

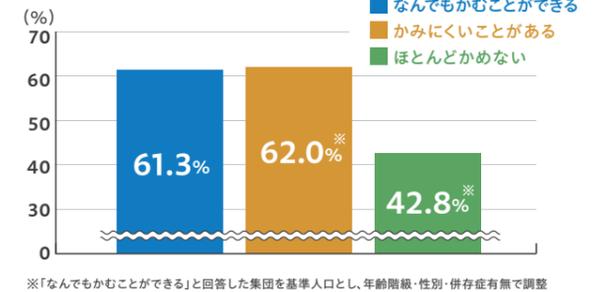
■ 糖尿病患者の歯科受診割合 (2019年度)



糖尿病患者が年に1回以上歯科を受診した割合は、そうでない人よりも低い傾向がみられました。歯周病は糖尿病を悪化させる一因ともいわれ、**歯周病治療を受けることで血糖値が改善することがわかっており、糖尿病患者の歯科受診は強く推奨されています。**

【咀嚼機能との関連も判明】

■ 咀嚼状態と歯科受診割合 (2019年度)



「ほとんどかめない」と答えた人の受診割合が低い結果に、**咀嚼機能は歯科治療で回復することができます。**生活の質を高めるためにも積極的な歯科受診が大切です。

本学の講師紹介

静岡社会健康医学大学院大学

博士(医学)・歯科医師

佐藤洋子 講師

前職は国立保健医療科学院にて、特定疾患(難病)のビッグデータ解析などに従事。本学では、SKDB解析を中心とした疫学研究や統計解析支援を行う。

SKDBを活用すれば“歯科難民”の可視化も実現可能

国保データベース(KDB)には医療保険や介護保険の医療費請求に使用されるレセプトデータや、特定健診データが含まれます。県下全35市町のKDBデータを結合し、匿名加工したうえで医学・疫学の研究用に整備しているのがSKDBの特徴です。また、個人単位で最大10年間追跡することが可能で、特定の病気が発症する原因や、病気による死亡リスク

などを検証することができます。私の研究分野である歯学では、医療機関データとSKDBを照合することで、歯科医療機関へのアクセシビリティが低い地域の割り出しも行っていきます。歯科医療機関へのアクセスが困難な“歯科難民”を可視化する試みも進めており、地域別に必要な支援を見つけるヒントになると考えています。

SKDBは医療機関の偏在対策や医療費の適正化など、県の課題を解消する一助となることが期待されています。

